

自転車、安全に乗って



ハンドブックを手に左側通行を誓う3年生たち（西岐波中体育館で）

うべこまち 全中3生にハンドブック寄贈

つなげたいと、第2版のハンドブックを作製。昨年は公立の13校を対象にしたが、今年は私立2校も含め、卒業を控えた3年生全員に配った。

4日には、村上ひとみ副会長（山口大学大学院理工学研究科准教授）が西岐波中を訪問。3年生163人を前に「自転車は環境やお財布に優しく、ダイエットにもいい」と利点を説明。交差点での出合い頭の事故発生状況などを示して、左側通行の徹底を呼び掛けた。

車道通行に関しては、現時点では自転車レーンが完備されていないため、車道の交通量や道幅を考慮して危険な場合は、無理せず歩道を通るよう指示。

ただし「お年寄りや子供ら歩行者を見たら、徐行するか降りて歩いて」と話し、夕方・夜間のライト点灯も促した。最後に、生徒たちがハンドブックを掲げながら「左側通行を守ろう」と唱和した。（松原）

うべ交通まちづくりの市民会議（高橋成次会長、通称うべこまち）が、市内の公立立全15中学校の3年生計1606人に「自転車を楽しく安全に利用するためのハンドブック」を贈った。

高校生になると自転車長くなる。昨年12月には通学が増え、移動距離も道路交通法の改正で、自

転車が路側帯を通行する際の左側通行規則が施行された。

うべこまちでは、左側通行の大切さと車道通行の意義を生徒たちに理解させ、事故の未然防止に